

令和7年度 学校評価報告書

丹波篠山市立八上小学校

校長 梅垣 佳代

1 学校教育目標等

やさしい心をもち 自ら学び みなぎる元気な 児童の育成

2 今年度の重点目標

<p>(1) 児童が主体的に学ぶ授業づくりを進め、自己学習力をつける。</p> <p>(2) 組織的に、児童が持っている良さや可能性を引き出し、望ましい生活習慣の定着を図る。</p> <p>(3) 「生きる力」の核となる豊かな人間性・自己のみならず多様な他者を思いやる心を育てるため、人権教育・道徳教育・特別支援教育を充実させる。</p> <p>(4) 家庭・地域と協働し、ふるさと八上に根ざした「地域とともにある学校づくり」を進める。</p>
--

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	教科担任制も有効活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化により児童の自己学習力をつける。	B	教科担任制も軌道に乗り、教師が専門性を高めるとともに、組織的に全児童に関わることができた。アナログとデジタルを融合的に活用した授業づくりも進めた。児童の自己学習力向上、個別最適な学びと協働的な学びをさらに充実させるためには、各教科における知識・技能を確実に定着させることにも力を入れる必要がある。
	全校やクラスの学び合いや対話活動を通して、協働的に学ぶ力の育成に取り組んでいる。	A	全校学び合いとともに、各学年での授業でも学び合いを取り入れた授業づくりの充実に向け、児童が主体的に学ぶための教師の手立てについて研究した。知識・技能を生かして他者と協働しながら自らの学びを調整し主体的に取り組もうとする児童の力をさらに伸ばしていきたい。
ふるさと教育	地域の人材や教材を活用し、ふるさと八上を大切にする教育活動に取り組んでいる。	A	地域人材を活用した黒豆や米の栽培・収穫・調理、丹波焼の作陶体験、保護者やまち協等と連携した高城山登山等を実施できた。年間計画をより有効活用し、総合的

			な学習の時間を核とした教科横断的・探究的な体験学習を行うとともに、学校運営協議会を中心に、地域とともにある学校づくりをさらに推進していく必要がある。
生活指導	保護者や関係機関等との連携を充実させ、児童の安心感や自己肯定感・有用感を高められるよう指導している。	A	各種会議で組織的な対応を検討し、必要に応じて迅速に保護者や専門機関に繋ぐことができた。学校からの積極的な情報発信（HP・通信）に加え、家庭の状況に応じた柔軟な連絡（面談・電話・連絡帳等）を徹底し、児童の強みや成長、具体的な支援策等を即時的に共有する等、保護者との信頼関係づくりに努めたことで、児童の行動変容と安心感にも繋がった。今後さらに、児童が「自分の力でできた」「誰かの役に立った」と実感できる場面を意図的に設定し自己肯定感・有用感を高めていく。挨拶をできていると感じる児童の意識と、不十分であるという大人の意識に差があるため挨拶ができる児童の育成をさらに進める。
	生徒指導委員会やケース会議などを通して、組織的にいじめの未然防止・早期発見・早期対応を全職員で行っている。	B	定期的にチーム会議等を設定し各学年の様子を共有できた。チャット活用により事案の発生から報告までの時間が短縮でき、教職員間の情報共有、生徒指導委員会やケース会議が円滑化した。SSW や SC と連携し、学校単独では解決が困難な事案に対しても組織的な対応を行えた。休み時間の児童との交流（見守り）を強化し、トラブルが表面化する前の「小さな変化」への気づきに努めた。今後、さらに保護者や関係機関との情報共有・合意形成をより丁寧に行い、未然防止の質を高める必要がある。
安全管理	学習や訓練を実施し安全・防犯意識を高めている。校舎や教室の環境整備に取り組んでいる。	A	年間を通した各種訓練を行うことで、雷雨による引き渡しにも迅速に対応することができた。消防署等と連携した救急対応訓練を計画的に実施し、教職員の緊急時対応の意識が高まった。今後も繰り返し安全指導を徹底し、児童へも教科等と関連付けた安全や防犯に関する安全学習を深める。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

学び合う活動とともに、宿題や授業でしっかりと基礎学力の定着を図ることで、さらに児童の自己学習力をつけてほしい。

教科担任制により組織的に児童一人一人を多面的にみられる体制ができている。今後、子どもたちの望ましい生活習慣を育成していくため、さらに保護者への啓発を進め、地域でも協力いけるようにしてほしい。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

タブレット端末を活用した学習に先進的に取り組んでいる。AI技術等が日々急激に進む中であるが、子どもたちに正しい情報を精査、取捨選択できる力、自分で考える力を培ってほしい。デジタル機器の活用と手書き等による基礎学習とのバランスをとり、子どもたちが情報機器とより良く付き合っていけるように、家庭と連携して進めてほしい。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	各児童がインターネットを使う時間が増えているという結果を受け、何に使っているかをさらに詳しく分析し、課題解決に向けた具体的な方策も明確にしていく必要がある。デジタル機器は、ゲームにばかり使ってしまったり視力が低下したりするマイナス面もあるが、うまく活用すれば、手書きするのは苦手でもタイピングで入力して表現できる等プラス面もある。タブレット端末を活用した個別最適な学びを引き続き積極的に進めていくと同時に、読書や手書きで書く活動等、紙媒体に接する時間の確保にも努めていく必要がある。学び合う活動は大切にしながら、基礎的学習力をつけていくためのよりよい方策を探り取り組んでほしい。授業参観で、頑張っている児童の様子を見ることができた。今後、体験活動の講師だけでなく学習支援等においても、さらなる地域人材の充実や協力体制構築を図っていく。
生徒指導	現在の子どもたちを取り巻く状況から、スマホやタブレット端末を使わずに生活していくことは難しいため、学校と家庭が連携して、子どもたちが情報機器とのよりよい付き合い方をできるような力をつけ、安全かつ有意義に活用できる方法を考えていきたい。校外学習の様子等を見て八上っ子の元気な様子がわかって嬉しい。今後も地域やPTAの挨拶運動を継続し、家庭、地域と連携して気持ちのよい挨拶ができる児童を育成していく。
安全管理	地域学校園安全委員会（学校運営協議会）等による安全点検において校舎外の点検も行い、歯磨き活動をさらに積極的に行うための手洗い場への鏡の設置、冬季の水道凍結防止のための手洗い場のブルーシート覆蓋等、指摘事項について可能な限り改善することができた。今後も、児童の視点や保護者、地域の視点を取り入れた安全で安心できる学校づくりを進めていきたい。

